

平成26年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

本年度の重点目標

① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切に作る心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する

② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る
ウ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る

③ 進路指導の充実

ア 生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する
ウ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える。
エ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る
イ 学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する
ウ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る エ 教育相談活動の一層の充実を図る

⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

⑧ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

⑨ グローバル人材の育成

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

⑩ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する
ウ 地域社会、PTA、同窓会との連携を図る

⑪ 教職員の資質向上

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標	人権教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する ②自他を大切にする心や態度を育成する ③家庭への啓発活動を推進する	① 人権に配慮した教育活動ができている。 生徒 85%以上 保護者 85%以上 教員 90%以上 ② 生徒の人権意識の向上度 70%以上			(評定)		
	①-1 「人権週間」の回数 年間4回を設定 ①-2 教職員人権研修会回数 年4回実施 ② 人権委員会、Know サークルによる啓発資料掲示 年4回以上 ③-1 「人権教育展」の回数 年間3回開催 ③-2 校誌の人権コーナーを充実					
	活動計画 ①-1 ・年間4回「人権週間」を設定する。 ・ホームルーム活動の活性化を図るため城東人権ゼミを充実させる。 ・人権啓発行事（コンサート・映画・講演会等）の実施 ①-2 人権意識高揚のための職員研修会を年間で2回実施する。 ② ・人権標語の募集、展示 ・特別支援学校との交流 ・校内に人権啓発に関するパネルを固定し、人権委員会や Know サークルの活動として、掲示物の作成に取り組む。（年間4回以上） ・自主活動の場として、「中・高生による人権交流事業」に積極的に参加する。 ③-1 PTA総会・城東祭（文化祭）や「とくしま教育の日」に「人権教育展」をそれぞれ開催する。 ③-2 校誌の人権コーナーを充実し、保護者への啓発活動を確実なものとする。	活動計画の実施状況	(所見)			
					学校関係者の意見	

2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標	授業に関するアンケート（生徒）	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る ② 主体的に学習に取り組む態度の育成を図る ③ 多様なニーズに応える教育課程の編成を図る	①	授業の工夫改善度 各教科 75%以上 学習に対する動機付け 75%以上 学習に対する意欲度 75%以上 ② 予習への取り組み度 50%以上 復習への取り組み度 50%以上			(評定)	
	③	進路希望にあったコース(教科・科目)の満足度 80%以上				
	①	研究授業参加回数 各教員年2回 授業公開 年3回 ② 生徒の学習時間（1日あたり） 30分未満の生徒の割合 1%以下 3時間を超える生徒の割合 50%以上 1日あたりの平均学習時間 3時間以上 ③ 教育課程検討委員会開催回数 年3回				
	活動計画	活動計画の実施状況		(所見)		
	①	<ul style="list-style-type: none"> 教科研究会を定期的実施し、授業力の向上・指導案の研究をする。 シラバスの改訂を行う。 研究授業、公開授業等で他の教員の授業を参観し授業力の向上を図る。 				
	②	<ul style="list-style-type: none"> 第1学年で英数国の学習ガイダンスを4月に特設授業の中で実施する。 好ましい学習態度を理解させる。 予習・復習、授業の受け方指導。 家庭学習時間調査を毎日実施する。 週末課題、週末テストを実施し、家庭学習の習慣化を徹底する。 学年団による学習指導、生活指導の充実を図る。 基礎学力養成講座、再テストの実施。 				
	③	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選、定期考査の工夫を行い、授業時数を確保する。 教育課程検討委員会において、教育課程やコース制の在り方等を検討する。 				
						学校関係者の意見

3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標	進路指導に関するアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる ②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる ③進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う	② 城東ゼミ（補習）の有用度 70%以上 ③ 進路情報の学校の提供度 80%以上	①-1 大学見学・企業見学の回数 各1回以上 ①-2 大学等授業体験の実施回数 1回以上 ①-3 職業ガイダンスの回数 1回以上 ①-4 省庁・国際機関での研修 各1回以上 ②-1 城東ゼミ（補習）の開設講座数 90講座以上 ②-2 国公立大学合格者の割合 60%以上 ②-3 難関大学（東京大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、医学部・歯学部・薬学部など）合格者 40名以上 ②-4 校外模試偏差値70以上 30名以上 偏差値60以上 120名以上 ②-5 課題研究発表会の回数 1回 ②-6 課題研究コンクール入賞 1班以上 ②-7 学力テストの講評の配布回数 11回以上 ③ 進路説明会回数 年間3回実施（各学年1回以上）		評価 総合評価	(評定)	
	活動計画 ①-1 京都大学見学の実施。企業研修の実施。オープンキャンパスへの参加の推奨。 ①-2 第2学年での大学等体験授業の実施。 ①-3 第1学年での職業ガイダンスの実施。 ①-4 外務省・文科省等での研修の実施。 ②-1 補習、模擬試験等を実施。 毎週34講座（3年生） 32講座（2年生） 24講座（1年生） ②-2 進路検討会を第3学年で年4回実施。 ②-3 難関大対象模試を各学年2回以上実施。 ②-4 模試分析会を第1, 2学年で3回実施する。 ②-5 第2学年で課題研究発表会の実施。 ②-6 課題研究コンクールへの応募の推奨。 ②-7 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布。 ③ ・進路説明会の実施。（各学年1回） ・最難関大学進学希望者説明会の実施。 ・難関大学、医・歯・薬学部進学希望者説明会の実施。	活動計画の実施状況				学校関係者の意見

4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標	生徒指導についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
<p>① 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る</p> <p>② 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する</p> <p>③ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える</p> <p>④ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する</p>	<p>①-1 服装・頭髪・挨拶が身についている。 生徒 80%以上 教員 85%以上</p> <p>①-2 ルール・マナーを守っている。 生徒 85%以上</p> <p>③ いじめを未然に防止するため、積極的な取組を行っている。</p> <p>④ 組織的な生徒指導ができています。 教員・保護者 85%以上</p>				(評定)	
	<p>①-1 生活委員・部活動生徒による登下校でのあいさつ・駐輪場のマナーアップ運動の実施回数 年間3回</p> <p>①-2 交通マナーアップ運動実施回数 年1回</p> <p>② 道徳教育のHR活動の回数 年2回</p> <p>③ いじめに関するHR活動の回数 年2回</p> <p>④ クラス分析会の実施 年3回</p>					
	活動計画	活動計画の実施状況			(所見)	
	<p>①-1 ・各学年での服装・頭髪指導を充実させる。(年3回)</p> <p>・生活委員・部活動生徒によるあいさつ運動・自転車駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施。</p> <p>①-2 ・遅刻の多い生徒に対し、段階的な指導として担任・生徒指導課・学年主任・管理職による個別指導を行う。状況に応じて保護者を持って指導を行う。</p> <p>・交通マナーアップ運動・携帯電話のマナーについての講演などを通じて、全校生徒に社会のルールを守る事やマナー指導を行う。</p> <p>② 道徳教育に関するHR活動を各学年で実施する。</p> <p>③ いじめ防止等対策委員会を定期的開催し、生徒の状況等について情報交換を行うと共に、必要な対策等について協議を行う。</p> <p>④ 様々な問題を抱えた生徒に対して、学年や部活動顧問及び生徒指導課等が連携し、多方面から生徒の家庭状況や心身の把握に努め、個々にあった適切な指導を模索し、効果的な指導に努める。</p>					学校関係者の意見

5 特別活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標	特別活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する ② 部活動を充実させる ③ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる	① 生徒会活動が活発である。 （生徒・保護者・教員） 80%以上 ② 部活動の入部率 80%以上 ③-1 募金活動などのボランティア活動に積極的に取り組む。 70%以上 ③-2 清掃ボランティア満足度 80%以上			③ 1・2年生全員による清掃ボランティア活動を年1回以上実施。	(評定)	
	活動計画	活動計画の実施状況		(所見)		
	① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加 ・朝のあいさつ運動の実施 ・委員会活動の充実 ② ・部活動と学習面との両立を可能な範囲で図る。 ・下校時間の遵守 ・部活動の精選 ③-1 ・ボランティア活動への積極的参加について、生徒会執行部やJRCとの協力の中で実践する。 ・地域（施設や諸学校など）に根づいたボランティア活動の実践。（生徒会・Knowサークル・邦楽部・オーケストラ・合唱部・茶道部・華道部・体育部など） ③-2 ・生徒会や体育部による学校周辺の清掃活動の実施。 ・1・2年生全員による市内道路及び河川敷の清掃ボランティア活動を年1回以上実施。					学校関係者の意見

6 健康教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標		評価指標による達成度	評価	総合評価	
①正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る	① 保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 75%以上 ② 世界の環境問題についての理解を深める。 70%以上 ③ 親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる。 75%以上				(評定)	
②学校の教育活動全体を通して、世界の人々の健康と環境問題についての学習を展開する。	①-1 「保健だより」の発行 10回以上 ①-2 尿検査の提出率 100% ③ 職員研修会の実施回数 年2回				(所見)	
③一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る						
④教育相談活動の一層の充実を図る	活動計画 ① ・「保健便り」の発行を年10回以上。 ・保健委員会での生徒の自主的活動の推進。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 ② ・各教科・各課と連携し、世界の人々の健康と環境問題解決への啓発を図る。 ・WHO等の国際機関での研修の実施。 ③ 特別支援教育に関する職員研修会を1学期、2学期にそれぞれ1回実施する。 ④-1 各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的実施し、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。 ④-2 カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動の充実。					
						学校関係者の意見

7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標	環境教育に関するアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
① 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る ② 校内外の環境美化活動を推進する ③ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する	① 環境美化活動に積極的に取り組んでいる。 80%以上 ② 清掃活動に熱心に取り組み、美しい環境を保つよう心掛けている。 80%以上				(評定)	
	② 環境委員による清掃奉仕活動（放課後）を年間5回以上実施する。 ③-1 避難訓練を年2回実施する。 ③-2 心肺蘇生法の講習会を実施する。					
	活動計画	活動計画の実施状況			(所見)	
	① ・節電・節水の呼びかけ ・環境問題に関する記事の掲示 ② ・毎日の清掃を徹底 ・環境委員による校内や学校周辺の清掃奉仕活動の実施 ③-1 防災訓練の実施及び避難経路の確認 ③-2 職員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回実施 ③-3 「防災クラブ」の活動を推進					
						学校関係者の意見

8 読書活動の推進

具体的目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標	読書活動についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣の形成を図る ②生徒の自主的な読書活動を推進する	①-1	読書活動に学校として積極的に取り組んでいる 70%以上			(評定)	
	①-2	生徒一人あたりの年間図書貸出数 4冊以上				
	②	読書会、読書週間の実施回数をそれぞれ年2回以上				
	活動計画		活動計画の実施状況		(所見)	
	①-1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読書週間を1・2学期にそれぞれ1回実施する。 ・ 学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・ 「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 				学校関係者の意見
	①-2	読書会を1・2学期にそれぞれ1回以上実施する。				
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書委員会を中心に、読書会・読書週間を利用して読書啓発をおこなう。 ・ 生活記録に「読書」欄を設け、読書への関心・意欲を高める。 				

9 グローバル人材の育成

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標		評価指標による達成度	評価	総合評価	
① 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る ② 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る	①② 国際交流・国際理解教育に積極的に取り組んでいる。（生徒・保護者・教員） 90%以上			評価 総合評価 （評定）		
	①-1 姉妹校交流の活動記録展示回数 2回 ①-2 姉妹校交流開始までに1, 2年生の全クラスで異文化理解学習を実施する。各クラス1回 ②-1 国際教育振興弁論大会等の生徒参加人数 15名 ②-2 国際教育振興弁論大会等の生徒入賞者数 10名 ②-3 国際理解教育に関する諸行事の参加回数 5回 ②-4 海外研修・海外留学に参加する生徒数 40名					
	活動計画 ①-1 文化祭などでサン・ジョセフ校との交流記録の展示をする。 ①-2 英語の授業を中心に姉妹校交流に向けてフランスへの理解を深めたり、日本のことをより深く学べるような異文化理解の授業を実施する。 ②-1 カレント・イングリッシュやコミュニケーション英語の授業を中心に身近な話題や関心のあることについてスピーチをしたり、英作文を書いたりする練習をしながらコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力に自信を持たせる。その上で、「国際教育振興弁論大会」等への参加を奨励するとともに、参加生徒へきめ細かな指導をする。 ②-3 ・JICA「高校生国際教育体験プログラム」への参加を奨励する。 ・地元大学や国際交流協会等と連携して留学生や海外大学生他、外国人との交流を図る。 ②-4 ・第8回姉妹校交流の受入(10月)、派遣(3月) ・サン・ジョセフ校の生徒とのテーマ別ディスカッションの実施。 ・ル・アーヴル市庁舎等での取材活動の実施。 ・海外研修・海外留学への参加を奨励する。	活動計画の実施状況 （所見）				
					学校関係者の意見	

10 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標		評価指標による達成度	評価	総合評価	
①教育活動の積極的な公開を推進する ②ホームページ等を利用した積極的な情報発信を推進する ③地域社会、PTA、同窓会との連携を図る	① 開かれた学校づくりについてのアンケート ① 教育活動の公開が学校の理解に役立っている（保護者） 90%以上 ② ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている（利用の保護者対象） 85%以上			評価 総合評価 (評定)		
	① 授業公開を年3回実施 参加者数（合計） 800名以上 中学生体験入学の参加者数 中学生 800名以上 保護者・教員 150名以上 ② ホームページの更新回数 年100回以上 ③-1 学校支援協議会の開催回数 年2回 ③-2 学校説明会の回数 年3回					
	活動計画 ① ・授業公開を実施する。中学校、大学、学校評議員、保護者等への案内を徹底する。 ・中学生体験入学の実施については体験授業、体験入部の内容や方法等について事前に十分検討する。 ② ホームページをリニューアルし、内容の速やかな更新に努める。 ③-1 学校支援協議会を6月と3月にそれぞれ1回開催する。 ③-2 中学生及び保護者対象の説明会を開催する。日程や中学校への案内を工夫する。	活動計画の実施状況 (所見)			学校関係者の意見	

11 教職員の資質向上

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度に残された課題
	評価指標	職員の職場についてのアンケート	評価指標による達成度	評価	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	① 教員の職務の満足度	90%以上			(評定)	
	②-1 コンプライアンスに対する自己評価	90%以上				
	②-2 危機管理に対する取り組み	90%以上				
	②-1 情報セキュリティポリシーについての研修会の回数	年2回実施				
	③-1 校内での研究授業・授業研究会参加人数	50名以上				
	③-2 校外での授業力向上研修参加人数	10名以上				
	活動計画	活動計画の実施状況			(所見)	
	①-1 校内組織の活性化を図るため、学年主任等を中心とした月例連絡会をもつ。					
	①-2 校内文書情報の共有化を図り効率的な校務事務処理を構築する。					
	② 「情報セキュリティポリシー」を確実に実行できるように徹底する。					
	③-1 計画訪問等も含め、職員研修・研究授業を計画的に配置する。					
	③-2 予備校等の授業力向上研修に参加する。					
						学校関係者の意見